

JIL 常任委員会 2018 年 10 月 2 日

★各委員会に求める役割・意見(別添記録)

● 全体

- 各地の介護報酬の差が活動力の差になっている。その資金力を JIL で埋める仕組みができないか
- 各委員会が連携をとって、必要なことを決めていけばいいのではないか

● ピアカウンセリング委員会

- 人数が少ないのではないか
- 重度の人が有効に使えるようにする
- 精神・知的・視覚のピアカンが求められている
- 全国のリーダーリストを作成してほしい
- ピアカンをやっているセンターや、長期講座を開催しているセンターが少ないので参加が難しい
- 地元での参加者が少ない
- 若い人に浸透させていきたい
- 必要であっても、経済的な理由からピアカン事業を継続させていくことが難しい
- 海外の需要があると思うので、広めていきたい
- ピアカンの手法が会議の持ち方など他の場面で活かせることもある
- ピアカンの手法を使って、自立支援がうまくいくように考えたり企画したりする
- エンパワメントのためにピアカンを使う
- 立場に合わせたピアカンを作してほしい
- ピアカウンセリングを JIL の人が有効に使えるように

● 介助サービス委員会

- 同性介助が危うくなってきている
- ILP をやるところが少ない
- 本人のエンパワーができていない
- 介助者の使い方や、日常生活、自立生活の継続について、介助者に求めること等の情報が少ないため、取り上げてほしい
- 自立生活を継続することに必要な情報が少ない
- 精神・知的の主体性を守るためにどう考えていくのか
- 計画相談についてどう捉えていくか
- クロスディスアビリティ、特に知的の自立生活について推進してほしい

- 自立した後のことを取り上げてほしい
- 当事者主体の介助派遣
- 介助者不足への取り組み
- 介護保険問題
- コーディネーターってなに？
- 各事業所でイベントなどを行って、介助者募集をしていく
- イベント内で被災地をまきこんでつなげていけるといい
- 介助サービスを安定したものにするために考える
- 介助者をどう増やしていくか
- 介助制度の課題を CIL から集めて、政策委員会と連携する
- 知的・精神の自立の新しい形を作っていく。プロジェクトとの連携
- それぞれのセンターが抱えている課題を持ち寄って解決していく

● 人権委員会

- (何か起きたときに)現場へ行くのか、そうではないのか方向性を決めるべき
- 菅原弁護士との関係性をもう一度考える
- (法律に基づいた)権利とは何なのか
- リーダーを増やしていく
- 事例を基に差別とは何なのかを考える
- 東さんや佐野さんの時には、何か起きた時にすぐ現場へ向かっていた。行動があった
- 現状は、気持ちがあったとしても、動きたくとも動けない
- スピードが遅いんじゃないか(LGBT 問題等)
- もっと発言権をもっていけばいいんじゃないのか
- 記者会見に人権委員会も同席すればいいのではないか
- 人権問題が起きた時にすぐ抗議行動を起こす
- 問題が起きた地域のセンターにノウハウを伝える
- 何が人権侵害か、感覚を磨けるように研修を組む
- 人権侵害に対する事例を教えてほしい
- 権利意識を高めるために何をしたら良いか伝える

● 政策委員会

- 制度をわかりやすく伝える
- 政策提言に活かせる意見を募る
- 全国組織ということを考えると、裾野を広げて意見集約して提言をまとめるのがいい
- 各 CIL で表に出る人、出てこない人がいる。全体で動く形(意識)にならないか
- 政策についてよく知ってもらって、わかりやすくみんなに伝える

- 国に提言する
- 地方自治体に提言するやり方を広める
- JIL 代表・副代表と信頼関係をつくってやっていくのがいい